



JAPIC会長
宗岡 正二
Shoji Muneoka
 新日鐵住金(株)
 代表取締役会長

JAPICとは

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(Japan Project-Industry Council: JAPIC)は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際協力の促進と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済・環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目指して活動して参りました。現在37業種205社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1.プロジェクトの企画・実現、2.政府関係機関への政策提言、3.産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。

開設趣旨

世界は冷戦終結以降、新興国の急成長や情報通信技術の目覚ましい進歩、金融市場のボラティリティ化などにより、大交流・大競争時代にシフトしています(グローバル化)。この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く「社会基礎学」の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探求し、全学部生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力向上をサポートします。

学生に期待するもの

講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か?」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、大競争時代の事実認識についての強い関心と好奇心、グローバル時代にチャレンジするための備えに取り組むことを期待します。

主催/神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部
 サポート/神戸大学東京六甲クラブ

【問い合わせ先】

神戸大学研究推進部連携推進課 産学官連携グループ
 連絡先電話番号/078-803-5427
 E-mail ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp

科目名 社会基礎学〔グローバル人材に不可欠な教養〕

産業界・官界・政界トップリーダーによる

連続リレー講座 2018

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?
 学生は何を学び、何を身につけるべきか?

神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づき、
 産業界・官界・政界のトップランナーがオムニバス形式で講義します。
 今、企業でどんな人材が求められているのか?学生に何を身に付けてほしいのか?土曜の午後を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。

開講時期 平成30年度 第2クォーター **土曜日 10:40▶16:40** **全6回**
(初日と最終日は13:20~16:40)

場所 鶴甲第1キャンパス K棟 K202号室

科目区分 総合教養科目(2015年度以降入学生)
 総合科目I(2014年度以前入学生)



神戸大学

世界に挑め!!

社会基礎学【平成30年度】

※2単位取得(科目区分、卒業案件の取り扱いは、学年・学部によって異なります。)

第1回	6/16(土)
13:20-16:40	
[導入講義] 連続リレー講義の意味・意義と狙い	
コーディネーター JAPIC 常務理事 三浦 潔司	
プロフィール:新日鐵(現新日鐵住金(株))入社し、主に鋼材の営業を担当。分野は、建築・土木、造船、建設機械、産業機械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。直近5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。1男(大学院生)1女(大学生)の父。趣味は、ゴルフ、読書、散歩に芸術鑑賞を加えるべく、勉強中。	
パネリスト 野村アセットマネジメント(株) 執行役専務 中川 順子	
プロフィール:1988年野村證券(株)入社。支店、投資銀行部門、財務部門を経験し2004年退社。2008年野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー(株)入社、同年社長に就任。2010年野村ホールディングス(株)へ異動。2011年執行役CFO、2013年執行役員、2017年には野村アセットマネジメント(株)執行役専務に就任。現在に至る。★本学出身者	

第2回	6/23(土)
10:40-12:10	
現代の金融システム	13:20-14:50
金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与えることもあり、悪者扱いされることも多い。講義では金融が個人の生活や企業活動にどう役立っているかについて具体的にみたく、どう活用していくことが望ましいかを考えてみたい。	グローバル化と戦争
	20世紀に2度の世界大戦を経験し、莫大な数の人が犠牲になったにもかかわらず、21世紀になった今も、世界各地で戦争は続いている。冷戦終結後、一気に進んだグローバル化によって各国の経済的結びつきが強まった結果、戦争の性質は変わったのか。トランプ米大統領の誕生や英国のEU離脱で表出した反グローバル化の波は戦争にどんな影響を与えるのか。各地での戦争取材の経験を交えながら、グローバル化と戦争の関係を考える。
ゴールドマン・サックス証券(株) コンプライアンス部門統括 マネージング・ディレクター プロフィール:1985年日本銀行入行。IMF出向、ニューヨーク事務所次長、政策委員会常任委員を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券(株)の現職に就任。日本創生委員、趣味:旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘:天朝後復讐にして漏らさず	共同通信社 外信部長 プロフィール:1985年共同通信社入社。神戸支局、横浜支局で主に事件取材。95年から海外特派員となり、ナイロビ支局でアフリカの紛争、飢饉、難民問題などを、バンコク支局でアジア地域統合、マンマー民主化などを、イスラエル支局で対テロ戦争などを、ワシントン支局で米大統領選、イラク戦争などをそれぞれ取材。2015年から現職。東京郡出身。趣味はテニス、読書。
元環境副大臣 衆議院議員	関 芳弘
プロフィール:大学時代に松下政経塾合格。卒業後、住友銀行(現三井住友銀行)入行。平成17年の小泉郵政解散の公選にて兵庫3区に立候補、候補者決定の連絡を受け、その日に退職届を提出。同選挙区で15年ぶりに自民党議席を獲得。経験を生かし、経済分野、財務金融分野に力を注ぐ。経済産業大臣政務官、環境副大臣を歴任。現在は自民党副幹事長・環境部会長。趣味は野球、読書、読書。	

第3回	6/30(土)
10:40-12:10	
日本を取り巻く安全保障環境と防衛政策	13:20-14:50
今、日本を取り巻く安全保障環境は、戦後、最も厳しいと言っても過言ではありません。北朝鮮による核・ミサイル開発や度重なる挑発的な言動といった朝鮮半島情勢、軍事力の近代化を急速に進める中国の動向といった日本周辺の情勢を解説しつつ、こうした中で、日本を防衛するために必要な政策は何かについて説明します。今、日本周辺で何が起きており、日本はどうすべきかを考える、一つのきっかけにしてもらえたらと思います。	地方創生に就いて
	政府が取組む地方創生プロジェクトも成功事例が増えました。地方創生においては、従来の大企業の工場建設、工場移転による雇用確保、公共工事に頼らず、従来型の地域経済活性化でない形が確立しつつある。政府のチャレンジは、このような成功事例をさらに多様化させること、また特定地域での成功事例をより広域に展開することで日本経済の底上げを実現することです。成功事例を通じて地方創生の次の展開を展望します。
防衛省 大臣官房 広報課長 プロフィール:1993年防衛庁入行。防衛政策局防衛政策課研究班長、防衛政策局戦略企画室総括班長、運用企画局国際協力課総括班長、経理装備局会計課企画調整官、大臣官房文書課企画調整官、美国防大学留学、九州防衛局企画部長を経て、昨年8月より現職。山梨県出身。	M&Company(株) 代表取締役社長 プロフィール:1987年日本生命保険相互会社入社。主計部、国際業務部を経てニューヨーク勤務。日本生命の国際戦略を立案、執行。その後外資系コンサルティング業界において、金融機関の戦略策定、執行を支援。現在は、2015年10月にベンチャー企業支援事業、政府政策課議員執行支援事業等を行うM&Company株式会社を設立し、現在に至る。大阪府出身。★本学出身者
元環境副大臣 衆議院議員	市川 道夫
プロフィール:1985年旧日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行。DBJシンガポールCEO、企業金融第5部担当部長(海外エネルギー担当)、中国支店長、地域企画部長、産業調査部長を経て、2016年より現職。東京郡出身。趣味:スキー、ゴルフ、登山、映画、音楽鑑賞、ドライブ。座右の銘は、「知行合一」。	前川 直和
西日本高速道路(株) 監査役 プロフィール:1985年旧日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行。DBJシンガポールCEO、企業金融第5部担当部長(海外エネルギー担当)、中国支店長、地域企画部長、産業調査部長を経て、2016年より現職。東京郡出身。趣味:スキー、ゴルフ、登山、映画、音楽鑑賞、ドライブ。座右の銘は、「知行合一」。	上村 俊一
プロフィール:1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鉄(現新日鐵住金(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。	

第4回	7/7(土)
10:40-12:10	
世界における産業潮流の変化と日本鉄鋼業の成長戦略	13:20-14:50
中国を含めたアジア経済が引き続きダイナミックに発展を続ける一方、温暖化への取り組み強化やリサイクルの推進等、地球環境に対する社会的要請の高まりを背景として、鉄鋼業を取り巻く内外の産業界の潮流が、近年、極めて大きな変化局面を迎えている。日本の鉄鋼業がこうした変化に柔軟に対応し、国際社会に貢献するとともに、自らも将来にわたって成長を遂げていくための戦略とそのための人材のあり方を考える。	東アジア大市场統合と日本
	東南アジア諸国連合(ASEAN)の巨大市場を睨み込もうと、日本、中国、韓国が激しい競争を展開している。中国の一帶一路やトランプ米大統領の影響で世界秩序が変化中。日本は東アジアでどう対応すべきかを、皆さんと考えたい。身近な事例としては、ASEANの若者に韓国のKポップは大人気なのに日本のアイドルは知名度が低い。そうしたソフトパワーの優劣が、日韓企業のシェア争いに影響を及ぼしている現状も解説する。
新日鐵住金(株) 常務執行役員 大阪支社長 プロフィール:1981年、住友金属工業(株)(現新日鐵住金(株))入社。同社総務部長、人事政務部長を歴任し、2012年10月の新日鐵住金(株)設立とともに総務部長就任。新会社におけるガバナンス上のフレームワーク構築・整備、海外事業の支援体制確立等に注力。一昨年4月より現職。大阪府出身。	松野 正人
プロフィール:1987年読売新聞入社。経済部で経産省、財務省、外務省、内閣府、国文省、総務省などの主要官庁や民間企業を取材。シンガポール特派員(アジア経済担当)、アジア総局長なども担当し、計6年半にわたってASEANに駐在。東アジア情勢を取材した。著書は、ASEANを巡る通商交渉の舞台裏や経済力を分析した「ASEAN大市场統合と日本」(文芸春秋)。趣味は旅行。	深沢 淳一 社長室次長
プロフィール:1981年、住友金属工業(株)(現新日鐵住金(株))入社。同社総務部長、人事政務部長を歴任し、2012年10月の新日鐵住金(株)設立とともに総務部長就任。新会社におけるガバナンス上のフレームワーク構築・整備、海外事業の支援体制確立等に注力。一昨年4月より現職。大阪府出身。	

第5回	7/14(土)
10:40-12:10	
企業活動のグローバル化と金融の役割	13:20-14:50
企業の成長にとって今やグローバル化は不可欠です。企業が国境を越えるうえで大きな課題の一つが金融です。金融は経済活動を支える基盤ですが、新興国では十分ではない金融インフラが成長を阻害したり、先進国でも金融に関する規制の違いなどから企業活動が制約されることがあります。本講義では、企業活動のグローバル化とそれを支える金融の役割について基礎知識がない方にもわかりやすく解説、討議していきます。	グローバルブランドのローカライゼーション
	1935年に誕生し、世界中で愛されているグローバルブランド「キットカット」。その「キットカット」を1973年から日本独自の方法で育ててきました。日本におけるキットカットの歴史を紐解き、時代時代でのどのように成長させてきたのかを、製品、消費者コミュニケーションの観点から、「受験キャンペーン」、「期間限定品」から高級ラインの「ショコラトリー」に至るまでの具体例を挙げながらセッションを進めて行きます。
西日本高速道路(株) 監査役 プロフィール:1985年旧日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行。DBJシンガポールCEO、企業金融第5部担当部長(海外エネルギー担当)、中国支店長、地域企画部長、産業調査部長を経て、2016年より現職。東京郡出身。趣味:スキー、ゴルフ、登山、映画、音楽鑑賞、ドライブ。座右の銘は、「知行合一」。	川住 昌光
プロフィール:1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鉄(現新日鐵住金(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。	

第6回	7/21(土)
13:20-14:50	
総括	
JAPIC 専務理事・事務局長 丸川 裕之	京都産業大学 現代社会学部 教授 脇浜 紀子
プロフィール:1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鉄(現新日鐵住金(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。	プロフィール:1990年読売テレビ入社。アナウンサーとして「ズームイン!!」や「ミヤネ屋」などを担当。2000年南カリフォルニア大学修士。2010年大阪大学大学院国際公共政策博士。2016年12月に読売テレビを早期退職し、2017年4月より京都産業大学現代社会学部教授に。趣味はスキューバダイビング。★本学出身者
15:10-16:40	
試験	

連続講義を受講した聴講者一人ひとりが、グローバル化をどのように捉え、どのような努力を今後していくべきか、また10年から20年後の将来(社会、自分)はどうなっているか、全員と具体的にディスカッションしていく。このことを通じて、自身のグローバル人材の在り方を再確認してほしい。

神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部 准教授
西原 圭志

プロフィール:工学博士取得後、山口大学地域共同研究開発センター助手。2000年、九州大学先端科学技術共同研究センター助手。2004年、長崎大学知的財産本部助教、同知的財産部長。2007年から現職。学生時代はハンドボール部。最近の趣味は、読書、旅行、露天風呂巡り。

社会基礎学 推薦文

【平成29年度受講生より】

国際人間科学部 1 回生

01

この講義を受けることで、新たな知見を得られるのはもちろんですが、「日本人としての自分」を見つめ直す良いきっかけにもなると思います。急速にグローバル化が進む中で、海外へ、という動きが見られますが、そんな時代だからこそ、我々は、より固いアイデンティティが求められるように思います。この講義では、現代の社会の動きを様々な分野の最前線の方々に教えていただきながら、じゃあ、これからどういったことが我々に求められるのか、何を学生生活の中で学ぶと良いのかをもう一度考える良い機会になると思います。また、私は昼食会に参加することで、文理両方のそれぞれ異なるバックグラウンドをもつ学生と意見交換する機会も得ることができました。ここでは、普段絶対に自分なら思いつかないような意見、価値観を交わすことができ、本当に楽しかったです。色々な視点から物事を見たり、自分と違う価値観をもつ人に出会ったりする場面が今後増えると思いますが、その時に自分はどうあるべきかということ学ぶことができました。

文学部 1 回生

02

私たちはグローバル化と呼ばれる世界に生まれた時から放り込まれていて、その言葉を聞くことなしに1日を終えることはほぼないと言って良いでしょう。しかし、その意味は?と、いざ訊ねられたら? それに対するあなたの意見は?と訊ねられたら?どきとするのではないのでしょうか。さらに、そのなかであなたは日本人としてどう振る舞えば良いと思いますか?なんて聞かれたら、それこそ閉口してしまうのではないのでしょうか。それに対する正しい答えというものはきっとありません。でも、この講義を受ければいつか聞かれてしまうかもしれないこれらの質問に対するヒントを得られます。そして何よりも、現在、世界規模で起きている地球温暖化やテロとの闘い、各地で頻発する紛争や情報化社会がはらむ問題といった混沌とした種々の問題に対して理解を深めるだけでなく、実際に世界の第一線で活躍される方々のお話を聞くことで、それらを身近な問題としてとらえることができます。そこから、自分が何をすべきか、そのためにどういった大学生活を送るべきか、おのずから見えてくるはずですよ。

工学部 1 回生

03

この講義で、いちばん良いと思ったことは、講師の方々の活躍されている場が本当に多岐にわたっていることです。ある一つの立場からだけの考え方でなく、たくさんの切り口からの考え方についてのお話を聞くことにより、かたよっていないフラットな状態で、自分はどう思うか、ということについて考えることができるように思います。また、普通に大学に通っていたのでは知ることのできないことについても教えていただくことができました。例えば、私は工学部なので、金融についての講義を聞く機会はほとんどありません。しかし、今回の授業でお話を聞くことができました。全く何も知らなかったので、初歩的なことから教えてもらえて、とても勉強になりました。

海事科学部 1 回生

04

海事科学部は2年次より深江キャンパスでの専門科目がほとんどとなるため、1年の間に少しでも多くの教養や考え方を身に付けようと思い、社会基礎学の受講を決めました。講義においては「グローバル化」や「海外で働くために」といったお話が多く、外航船の船員を目標としている私には有意義なものが多くありました。それ以外にも、「ASEAN市場」や「アジア経済」あるいは「(港湾等を含む)インフラ」「日本の鉄鋼業」等のテーマがあり、海事科学部のどの分野を目指す人にも、あるいは、まだ進みたい分野が決まっていない人の進路選択にも役立つものであると感じました。講義をして下さる先生方は、普段はなかなかお会いできない、各界のトップリーダーの方々と、私達からは見ることもできないような、素晴らしい見地からお話して下さり、非常に白熱したものでした。講義後の質疑応答で先生と直接意見を交わせるのはもちろんのこと、質疑応答後も残って議論して下さる先生もいらっしゃり、非常に濃密な授業です。是非、知見を深め、素養を身に付けることのできるこの講義を受講することをおすすめします。

法学部 1 回生

05

社会基礎学を受講するメリットは大きく分けて2点あります。1点目は、やはり社会の最前線で実際にご活躍されている実務家の方々のお話を聞けるということです。神戸大学における各学部の授業は、非常にレベルの高いものではありませんが、「世界では何が起こっているか、グローバル化が進む中で私達はどうすべきか」という現実的なことを知ることができるのは、この講義しかありません。2点目は、教養の豊かな、レベルの高い学生と同じ授業に参加できるということです。私がこの講義に参加して一番驚いたのはこの点です。「同じ大学の同回生なのに、知識レベルがこんなにも違うんだ。僕も頑張ろう」と刺激を受けます。

経済学部 1 回生

06

この授業は、普通の授業だけでは学べないような様々な分野に触れることができる大変有意義な授業です。来て下さる先生は、日本のリーダーと言えるような素晴らしい先生ばかりで、話を聞いていると、自然と自分も大きな目線で物事を考えるようになってきます。土曜日の長時間の授業なので、大変ではありますが、様々な問題を自分のこととして考え、自分の将来へとつなげていってほしいと思います。私はまだ将来やりたいことが見つからないのですが、同じような状況の方はぜひ参加して、興味のある分野を探したり、幅広い教養を身につける場にしたいと思っています。

経営学部 1 回生

07

この講義は、第一線で活躍なさっている先生方のお話を聞くことができる貴重な機会です。今までの自分の思い込みを断ち切ることができ、また、自分が今まで考えたこともなかったような考え方に触れることもできるので、本当に自分のためになると思います。グローバル化の中で実際に活躍なさっている方のお話を聞くことは、グローバル化についての本をただ読み、ネットで調べるよりも、よりリアリティを持って自分の中に入れてくれると思います。自分が将来、海外で活動することを視野に入れている、あるいは、そうでなくとも、世界に興味がある人は是非受講してみてください。とても刺激になる講義だと思います。少しでも受けようかな、という気持ちのある人は受けて損はないと思います。

理学部 1 回生

08

2018年、日本は否応なしに変革の岐路に立たされます。グローバル化の進行はもとより、「2018年問題」とも言われる少子化の進行、医療制度の改革、その中で象徴的な天皇の退位宣言と、単に今までの「今年が変わる」と言ったようなものではないような変革が立ちこめます。その中で、世界のトップで活躍される方々の話を聞いて、現状を把握し、考えることは非常に大切だと思います。よく「大学の授業は退屈で、しかも役に立たない」と言われますが、この授業の先生方の話はワクワクするようなものばかりで、しかもすぐに役立ちます。

農学部 1 回生

09

普段聞くことの少ない、経済や金融の話を知ることができて良かったです。また、ある1つの課題に対しても、文系、理系の垣根を越えた、様々なアプローチがあるということを知ることができ、視野が広がったように思います。先生方の話は、正に今現在の課題や、ニュースになっていることに関連した話題も多かったのですが、興味深かったです。今後の学生生活を、強いては自分の将来を考えるうえで糧になったと思います。

医学部 1 回生

10

今後は医療の現場においてもグローバル化(多人種、多職種との連携)が進むであろうと考え、この講義を受講することにしました。実際に各界で活躍されている講師の方々のお話は興味深いものばかりであり、とても参考になりました。また、講義に対する同世代の意見、特に他学部生のもは自分にとって新鮮であり、とても良い刺激になりました。自分の専門分野だけではなく多角的視点を得たいと思う人は是非この「社会基礎学」を受講することをおすすめします。